

動植物が生息・生育できる環境を代償・創出する観点から、八王子JCTには水路や調整池を利用したビオトープを整備しています。

ビオトープ内で確認できる動植物は年々増えています。周辺の森から様々な動物が来て、ビオトープを利用していることがわかってきました。



造成当時の状況(2007年夏)



約3年後の状況(2010年夏)



ビオトープって何？

ギリシア語の「Bio(生命)」と「Topos(場所)」を組み合わせた造語でドイツ語です。日本語では、「動植物が生息・生育する空間」と訳されています。



水辺空間の創出



モリアオガエルの卵塊 モリアオガエルは下に水面のある木の枝に卵を産みます



ビオトープ内の排水溝

吸盤のない両生・爬虫類が落ちても這い上がれるように、排水溝の片側は、傾斜を付けて粗面にしてあります。



(上) モリアオガエルの成体
(下左) オタマジャクシ (下右) 幼体

希少植物の移植

工事で改変する場所に生えている地域の希少な植物は、安全な場所に移植しています。

自然公園法やレッドデータブック等で指定されている種、その他地域に固有で希少となっている種を対象としています。



(上) ヤマユリ開花
(下左) ヤマユリの種
(下右) 移植作業の様子

けもの道の設置



◀ 周辺の森とビオトープをつなぐけもの道

動物の移動経路を確保するためのけもの道となるボックス(高速道路下の通路)を設けています。

ここに自動撮影カメラを設置して、夜間に行動する動物を撮影しました。



カルバートボックスの中のタヌキ



カルバートボックスを通るアナグマ